

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2570300430		
法人名	医療法人 あいち診療会		
事業所名	グループホーム いろり庵		
所在地	滋賀県長浜市野瀬町743番地		
自己評価作成日	平成26年5月30日	評価結果市町村受理日	平成26年7月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク滋賀福祉調査センター		
所在地	大津市和邇中浜432番地 平和堂和邇店2階		
訪問調査日	平成26年6月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

幼稚園の跡地を改築して開設された施設であり、敷地も広く自然が多く、畑に利用できる土地もあり、野菜作りも提供できるようになっている。民家の近くに隣接しているため地域のひととの顔見知りもあり、地域交流も深められる。利用者様のご家族も訪ねやすい場所と喜んでおられる。医療・看護面においても充実した体制で対応できるように心がけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

桜、新緑、蛍、紅葉、真っ白な伊吹山や里山を食事しながら、寛ぎながら接することができる事業所である。「利用者に一生・安住の地を提供し、家族および地域のひと々と良好な関係を持ち続けるよう支援する」という理念に基づいて、介護に取り組んでいる。運営推進会議には地域のひとや警察駐在員、小学校関係者にも出席してもらう等、近隣との絆を深め、家族の信頼を高めるように努めている。家族の希望に沿った看取りも経験し、平均介護度の高い利用者の日々のケアに懸命に取り組んでおり、利用者が安心して終の棲家として過ごせるように支援している。訪問看護センターが事業所内にあり医療面で安心できる。利用者が職員に、生活に感謝しながら、できる限りの自立を目指し、洗濯物のたたみや、積み木での算数・国語、工作などに興じて穏やかに過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みのひとや地域のひと々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が理念を共有し実践出来るように、常時玄関に理念を掲載し認識を持つようになっている。	地域密着サービスの意義を生かした理念を作り、玄関に掲示すると共にケア会議で確認し合っている。近接の小学校とは日常的に密接な交流を重ねるなど、地域に根差したサービス提供に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の方から野菜をいただいたり、地藏盆のお参りに行ったり、お祭りを見学したり、交流を持つようになっている。	お茶会を開いて地域の高齢者を招いたり、農家に水を提供し、旬の野菜差し入れを受ける等地域との付き合いに努めている。小学校(今春廃校)の卒業生も在校生も事業所を訪問し、共に工作する等楽しみながら交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設にある体育館を開放し要支援予備軍の筋トレ教室を行っている。又、お茶会や家族会等は大勢の人が集まり、交流を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回運営推進会議を開き、事業所の状況を話し色々な方向から意見をいただき、サービスの向上に活かしている。	統合された小学校の関係者、家族や行政などの参加で開催し、自己評価、外部評価についても報告し、討議している。避難訓練の在り方や防災マニュアルなどについて提案を活かして改善に努めている。職員にも会議内容を報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村からは情報も多く伝えられる中、居室の空き情報については利用度が高い。	法改正などについて出向いたり、電話等で相談し助言や情報を得ている。事業所の広報誌「いろり庵便り」を長浜市支所に提出することや、市からの事業所設備に対する助言を受けるなど日々連携に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在、利用者様に対して何も拘束をしていない。	身体拘束について採用時の内部研修、以降の院内研修(法人内)を継続実施して認識を深めている。日常のケア業務の中での声かけについても職員間で検討している。夜間以外は玄関の施錠はしていない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待はあってはならない事である。未然に防ぐ努力が必要である。職員研修等には参加をし、知識、事例を学び、防止に努める。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に出席し、情報の共有が出来るようスタッフに回覧する。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分に説明をするが、納得のいかない場合はいつでも聞いていただくよう配慮している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月1回の利用料の納入時や、電話や家族会議等、家族との交流はあるため意見の交換はされている方である。	年1回の家族会は、広い体育館跡を利用して茶話会を開催し家族の意見を聞く場を設けている。月1回の家族訪問(料金支払い)時も意見を聞く場になるように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のケア会議を行い、職員の提案により運営も変化している。	管理者が職員と同様の勤務形態を採り、日常の介護の中で各職員との対話に努め、意見や提案を受けている。ケア会議、運営全般に関する職員会議を月1度開催し、職員の意見聴取に努め、運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の要望・就業環境は、代表者の配慮もありある程度聞き入れられている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修や、職員の集まる機会を作る。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者とともに交流する機会は少ないが、電話による交流はよくある。全体の研修会にも参加し、交流もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の事前調査や本人様の要望に近づけるよう、スタッフとも話し合いの場を持つようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に家族が抱えている事、不安・悩み等要望を聞き、また、その都度問題があれば電話連絡をする等している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何が必要とされる支援かを見極め、スタッフで連携し対応する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様が出来ることはしてもらい、強要せず家にいた時と同じような生活環境を考えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会という催しを計画し、家族と共に過ごしていただく時間を設け共に支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	馴染みの方の訪問も多くあり、これまでの関係を大切にいただいている。	年末・年始を自宅で迎える外泊、法事や墓参りへの外出を支援している。家族、親戚、知人の来訪が、平均利用者一人について月3～4回ある。電話を家族にして来訪を促し馴染みの継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	誕生日には皆さんでお祝い会をし、居室で一人にならないよう3時のおやつ時間はホールにて過ごしていただくようになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の利用者様や家族様が訪問されることもよくある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族様への電話の要求や、外出など要求に応じてではあるが、なるべく叶えられるように職員間で話し合い支援する。	フェイスシート、基本情報以外の補足は日々の寄り添いで傾聴に努め、新しい情報や意向を把握している。ケア会議にて報告し合っ て情報の共有化を計り、日々のケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活が大きく変化しないよう、使い慣れた生活道具や家具等を手元に置いて環境にも気遣いを行う。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	聞いた情報と、実際過ごしていただいた内容を把握し、快適に過ごしていただけるよう心掛けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様のモニタリングは担当職員が行うが、他の職員も閲覧できるようになっている。介護計画は、本人家族の意見を反映させている。	ケア会議で利用者の日課表、週間サービス対応表を元に作成したモニタリング結果を報告し、家族の意向も踏まえ、利用者全員の3月毎の介護計画見直しに反映している。家族の承認を得ていないものも見られる。	見直した介護計画は、必ず家族に承認を得るようにして欲しい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、ケアを行う中で体調変化や異常の発見は必ず記録に残し、スタッフ間で共有し介護計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームの特性を活かし、業務内容や食事形態などの変更、また体調状況に合わせている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日常施設の利用者と顔なじみの近隣がいて、異常行動の報告をしてもらったり、施設の環境整備等も気にかけてもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所の為かかりつけ医の受診が困難な利用者に関り家族や本人の同意を得て変更しているが、本人が望めば従来のかかりつけ医のままいられるよう支援している。	家族の同意を得て運営法人のクリニックを協力医に変更している利用者もいる。かかりつけ医の診察支援も行い、支援した場合の医療情報は、家族に報告し共有している。訪問看護センターが同居しており、緊急時対応に利用している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設の敷地内に居宅と訪問看護ステーションが移動してきたため、今まで以上に看護師との連携が密に取れるようになった。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院された場合、病院関係者との情報交換を密に行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	H24年4月より看取り加算を取ることとなり、家族様への説明も納得のいくように行っている。	対応指針を文書化し、契約時に説明し、利用者全員の同意を得ている。当事業所は過去7人を看取っている。同一建物内には訪問看護センターがあり連携して対応している。ターミナルケア、尊厳死の勉強会も開催し対応に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応として会議等の場で情報の共有を行い、看護師から知識等の指導も受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練の実施、避難経路図を施設内に貼り出し、日々認識を持っている。	消防署員の立会いも得て、全員参加の火災時訓練、夜間を想定した全利用者と職員1人の避難訓練を実施している。地域住民の参加が得られていない。米や水の備蓄をし運営法人も備蓄をして補完している。	避難訓練は近隣住民の参加も得て実施し、災害に備えた協力体制を築いて欲しい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の立場に立ち適切な言葉をかけセブライドに配慮した対応を心掛けている。個人情報の保管や取扱いに注意し、シュレッダーで処理している。	馴れ馴れ過ぎないように職員同士で注意しながら言葉かけをしている。個人情報保護に関しての研修を受けそれを全員で共有するように努めている。個人情報は蓋付ボックスに入れ事務室で保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活レベルを整えながら本人の希望や体調を考慮しながら生活していただいている。外への散歩等付き添っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々より発信される発言に耳を傾け個人のペースに合わせられるよう職員間で情報交換し支援出来るようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人と相談し服を決めたり、季節ごとに合った服を着用していただいている。訪問理容を利用し定期的に散髪して身だしなみを整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	器や盛り付けの工夫をし、食欲が出るようにしている。好みにも配慮し提供している。後片付けの手伝いも一緒に行っている。	利用者が毎食感謝の挨拶をして食事を始めている。法人からの配食を原則としているが、日曜の夕食は利用者の好みに合わせて調理している。職員も介助しながら同じ場所で前後して食事している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分は1日1000mlを目標に提供し、チェックシートで確認している。食事量にも声掛けなどで促し、管理栄養士よりバランスの良い食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの促し、洗面所まで行き歯磨き、うがい、義歯戦場の徹底、夜間は義歯洗浄剤を使用し朝まで預らせていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ワークシートを活用し排泄を促す声掛けを行っている。清潔保持のパッド交換や確認パターンの把握をして自立の支援、定期的な排泄も行っている。	排泄チェック表、定時誘導、サインを見ることを併用して、さりげなくトイレでの排泄に誘導している。パッドなどは利用者個人が保管し、介助を受けながらも自ら使用することに努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	看護師や医師に情報を伝え、適切な便コントロール服薬や水分を多く飲用していただく等で対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調確認をし、ゆっくり入浴していただけるよう心掛けている。基本的に毎日入浴していただいております。無理強いせず洗髪も対応している。	利用者全員が本人の希望に沿って、ほぼ毎日のようにリフト浴を使用して入浴している。都度お湯を入れ替えて入浴している。嫌がる利用者にはシャワーだけでも使用してもらい、清潔さを大切にしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に合わせて、休息を取っていただく。昼食後は、居室で30分～1時間程休んでいただいている。居室には、昔使っていたものや写真などを貼って自分の空間を作っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スギ薬局と連携を結んでおり、医師より処方された薬を薬カレンダーにセットしていただいている。薬剤師より口頭説明、説明書、伝達事項の報告書をいただいております。すぐに聞くことができる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴の情報や会話の中で興味を示されたものに対しレクの中に取り入れたり、畑や花の栽培を手伝っていただいたり、コミュニケーションを持つ際に気分転換の材料に役立っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	晴れている日には外に出て太陽に当たり散歩をしたり、気分転換をしていただいている。盆梅や桜見学、外食等、ドライブを兼ねた遠足を楽しんでいただいている。	日曜の買い物には車に同乗して出かけている。すぐ前の小学校への桜見物など散歩や訪問家族との散歩に出かけている。収穫などの畑作業や近隣施設のレクリエーションに出かけているが、頻度は少ない。	介護度が高いための人手不足を補う手法を検討して、より多くの外出を採り入れて欲しい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様より「おこづかい」として入金していただき、各自、財布を用意、金庫に保管している。日曜日の買い物時や遠足時には、財布より買い物を楽しまれている。(一緒に付き添う)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様より希望があれば電話の取りつぎを行っている。手紙の返信もお手伝いし、送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間を広く取り、動きやすいようにしている。カーテンでの光の調整や温度・湿度測定を1日、朝・昼・夜と3回行って環境を整えている。季節のお花をテーブル等にも飾り水をかえる等している。	広い廊下、その両脇に置かれたソファ、居間の横には畳部屋を配置し、窓を大きく採り、外の風景を見ることができ、明るい共用空間を作っている。壁には月々製作(6月は紫陽花)の貼り絵や小学生の絞り染紙創作や季節の花を飾っている。浴室、トイレは清潔である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にはゆったり座れる椅子を置いたり、制作物の貼り絵や花等を飾っている。テーブル席も気軽に気の合った方が話せるような席になるように心がけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には昔からの使い馴染みのある家具やテレビの持ち込み等されている方もあり、自由に過ごせるように配置されている。	居室には家族や若い頃の写真、使い慣れた家具や馴染みの道具類などの小物が置かれている。ガラスと障子の二重窓で見晴らしもよく明るい居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の行動を見極め、危険なものを取り除いたり、家具を置く等対応している。滑り止めのマットを敷いたりベッドの高さを個人に合わせセッティングしている。		

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2 (2)	小学校が廃校になり、小学校との交流が少なくなった。	統合した小学校へ交流の依頼をする。	推進委員を校長か教頭に依頼し、事業計画の中にいろり庵の訪問日を折り込んでもらう。	3ヶ月
2	35 (13)	災害時における備品の備え、又、防災訓練の実施不足。	災害時に際し、飲料水・食糧の貯えを確保する。避難訓練の計画を立てる。	法人本部とも連携を取り、備品確保を行い、有事の際に慌てなくても良いようにする。	12ヶ月
3	11 (7)	施設内外の研修に出席できる職員が少ない。	出席した職員の研修記録を確実に残し、その記録にて研修内容が全員に把握できるようにする。	研修の記録用紙の整理、分かりやすいよう、又、書きやすいように様式を考え、受講したスタッフに負担がかからないようにする。	6ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。